

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	小坂 貴寛
生涯学習課	引野 雅文
子ども未来課	服部 智昭

重点目標	4 豊かな人間性・社会性を育みます
基本の方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切に育む豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。

1. 施策の方向性

PLAN

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成	<p>①小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。</p> <p>②生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。</p> <p>③地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。</p> <p>④各中学校区において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取り組みを協働して進めます。</p> <p>⑤情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や学校支援ボランティア等と連携し、系統のかつ一貫性のある指導体制を整備します。</p>
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実	<p>①子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実を図ります。</p> <p>②学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。</p> <p>③いじめの防止等に関する基本的な方針を基に、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し対策の総合的な実施を一層推進します。</p> <p>④不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰を目指すため、教育支援センター「麦わら」の相談支援機能を高めます。</p>
3. 家庭・地域の教育力の向上	<p>①各中学校区の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。</p> <p>②家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担うため、就学前から青年期までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。</p> <p>③子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、すべての町域における家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。</p> <p>④子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動を充実します。</p> <p>⑤地域における子どもたちの活動拠点を確保し、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行う地域子ども教室の拡充を進めます。</p> <p>⑥青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。</p>
4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	<p>①子どもが生涯にわたって芸術や自然を愛する心や豊かな感性を育むための体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。</p> <p>②学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。</p>

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市いじめ防止等基本方針	国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定	平成26年6月	計画期間の定めなし	策定から3年経過を目途に見直し(平成30年度見直し)

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧		PLAN	DO	※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照	CHECK	ACT
1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成					決算額(単位:千円)	
主な取り組み					H30決算額	R1決算額
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	事務の改善
① 小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。						
② 生命を大切にするとともに、他人を尊重する心などを育むとともに、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。						
③ 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。						
④ 各中学校区において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取り組みを協働して進めます。						
⑤ 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。						
1	小学校教育推進活動実践事業	学校教育課	2,063	1,667	1,777	現状維持
地域社会における仕事や文化の体験活動、総合的な学習活動等を実践し、豊かな人間性の育成を図る。						
2	中学校教育推進活動実践事業	学校教育課	1,082	1,230	1,357	現状維持
国府等の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、特色ある教育等を実践し、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。						
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実					決算額(単位:千円)	
主な取り組み					H30決算額	R1決算額
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	事務の改善
① 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。						
② 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。						
③ いじめの防止等に関する基本的な方針を基に、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し対策の総合的な実施を一層推進します。						
④ 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰を目指すため、教育支援センター「麦わら」の相談支援機能を高めます。						
3	いじめ防止啓発推進事業	学校教育課	158	199	189	現状維持
「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。						
4	いじめ防止対策等運営事業	学校教育課	227	285	384	現状維持
いじめ問題対策連絡会議及びいじめ防止対策等専門委員会を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。						
5	指導主事設置事業	学校教育課	9,934	10,031	12,299	現状維持
非常勤指導主事を配置し、学校教育及び就学前教育の充実を図るとともに、円滑な学校経営を推進する。						
6	就学支援・教育相談事業	学校教育課	510	247	237	現状維持
児童生徒の不登校など学校不適応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。						
7	教育支援センター管理運営事業	学校教育課	8,005	7,794	10,580	現状維持
不登校、又はその傾向にある児童生徒の学校生活への復帰等の社会的自立を支援する。						
8	小学校スクールサポーター等設置事業	学校教育課	41,902	36,966	58,390	現状維持
スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。						
9	中学校スクールサポーター等設置事業	学校教育課	32,243	28,007	38,982	現状維持
スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。						
3. 家庭・地域の教育力の向上					決算額(単位:千円)	
主な取り組み					H30決算額	R1決算額
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	事務の改善
① 各中学校区の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。						
② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にするとともに、養育最も重要な役割を担うため、就学前から青年期までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。						
③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、すべての町域における家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。						
④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動を充実します。						
⑤ 地域における子どもたちの活動拠点を確保し、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行う地域子ども教室の拡充を進めます。						
⑥ 青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。						

10	家庭こども相談室事業	子ども未来課	1,318	289	294	現状維持
家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。						
11	家庭教育事業	生涯学習課	1,841	1,574	1,860	現状維持
発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。						
12	放課後児童健全育成事業	子ども未来課	163,785	177,977	317,477	拡大
保護者の就労等により放課後や長期休業期の昼間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。						
13	子ども放課後対策推進事業	子ども未来課	891	874	780	現状維持
放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。						
4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 子どもが生涯にわたって芸術や自然を愛する心や豊かな感性を育むための体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。						
② 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。						
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績)			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
14	放課後子ども総合プラン事業	子ども未来課	0	0	-	統合(整理)
国の「放課後子ども総合プラン」に基づき実施する、放課後子ども教室の運営方法を検討するため運営委員会は、任期満了に伴い、必要な審議等を子ども未来まちづくり審議会にて行うこととした。						
計			263,959	267,140	444,606	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	<p>学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。</p> <p>また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。</p>							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	実績値(現状)		目標値		
			年度	年度	年度	年度		
	不登校児童の発生率<小学校>	—	5人/0.16%	H25	0.32	R1	減少させる	R6
	不登校生徒の発生率<中学校>	—	47人/2.49%	H25	3.87	R1	減少させる	R6
	いじめの認知件数/発生率<小学校>	—	386件/12.7%	H25	420件 17.0%	R1	減少させる	R6
	いじめの認知件数/発生率<中学校>	—	189件/10.2%	H25	40件 2.8%	R1	減少させる	R6
	認知されたいじめの年度内解消率<小学校>	—	357件/92.5%	H25	72.0 (いじめの解消要件が定義されたため、令和元年度第2回調査の追跡調査結果を記載)	R1	100%	R6
	認知されたいじめの年度内解消率<中学校>	—	181件/95.8%	H25	98.0 (いじめの解消要件が定義されたため、令和元年度第2回調査の追跡調査結果を記載)	R1	100%	R6
いじめはいけないことだという意識がある児童の割合<小学校>	%	97.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙小6	H25	98.9	R1	増加させる	R6	
いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.9 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙中3	H25	97.9	R1	増加させる	R6	
学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合<小学校>	%	93.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙小6	H25	94.9	R1	増加させる	R6	

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
主な目標指標	学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	97.2	R1	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合<小学校>	%	94.4 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	94.6 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による)小4	R1	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合<中学校>	%	95.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	98.2 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による)中2	R1	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合<小学校>	%	94.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	96.1	R1	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合<中学校>	%	93.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.5	R1	増加させる	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	<p>《不登校児童生徒の出現率》 不登校児童生徒の出現率は、小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取り組みや確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は上がっているものの、不登校の出現率が増加傾向にある。特に中学校では、前年度比0.75%の増加となっており、出現率を減少させるための効果的な未然防止の取組強化が更に必要である。</p> <p>《いじめの認知件数/認知率》 いじめの認知率は、小学生で2.1%減少し、中学校はほぼ横ばいであった。いじめを積極的に認知し指導しているものと捉え、引き続き、些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、より丁寧な指導を継続していく必要がある。</p> <p>《認知されたいじめの年度内解消率》 令和元年度第2回いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果では、小学校は新型コロナウイルス感染症の影響により聞き取り調査が実施できなかった未解消数値であり、中学校で2%が未解消であり、解消要件を踏まえ児童生徒に寄り添った指導を継続している。今後も、各校のいじめ防止基本方針に基づき、実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し丁寧な指導を行うとともに、関係機関と連携した体制強化を図っていく必要がある。</p> <p>《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》 いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、小学校ではほぼ横ばい、中学校では増加し小中学校ともに高い水準を維持している。今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取組みの充実を図る必要がある。</p> <p>《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》 学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合は、小中学校ともに増加した。各校園の丁寧な指導及び小中一貫教育による一貫性のある指導等によって、規範意識は確実に高まっている。引き続き、小学校低学年からの規範意識の醸成等による系統的な指導を進めていく必要がある。</p> <p>《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小学生では増加し、中学生ではほぼ横ばいで、小中学生ともに高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、人の気持ちを理解して行動したり、発言したりすることの重要性が確実に身に付いてきている。今後も個別の配慮児童生徒への丁寧な指導が必要である。</p> <p>《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小中学校ともにほぼ横ばいであるが高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。</p>
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
×		
大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学习や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。
	2	いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能を更に高めるなど、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。
	3	地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流についても支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また平成28年度からスタートした「放課後子ども教室」事業は、安定的運営を目指す。
	4	子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	1,667千円	1,708千円	41千円	97.5%	(参考)当初予算額					
	目	02 教育振興費						1,934千円				
	事	04 小学校教育推進事業										
	細事	02 小学校教育推進活動実践事業	府補	KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金(2/3)		378千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源								
目的		地域社会における仕事や文化の体験活動、総合的な学習活動等を実践し、豊かな人間性の育成を図る。										
主要な事務・事業の概要	○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動（講師謝金、消耗品費等） 1,197千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業（府補助事業：全校で実施） 574千円 ・総合的な学習活動推進事業（市単独事業：全校で実施） 623千円 ○教育研究事業負担金 146千円 京丹後市小学校教育研究会 小学校教育に関する研究を推進し、小学校教育の充実・発展と教職員の資質の向上を図るため、各教科の研究、研修会等を実施。 ○修学旅行引率補助金 324千円 小学校17校 引率教員68人											
	成果・課題	○地域社会における仕事や文化の体験活動を通して、キャリア教育を推進するとともに、規範意識、コミュニケーション能力、人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む教育のより一層の推進につながった。 ○児童の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続して実践していくため、教職員の資質の向上と併せ、各学校の創意工夫による効果的な実践活動が必要である。										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局	
	項	03 中学校費	1,230千円	1,361千円	131千円	90.3%	(参考)当初予算額						
	目	02 教育振興費						1,161千円					
	事	04 中学校教育推進事業											
	細事	02 中学校教育推進活動実践事業	府補	KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金(2/3)		250千円							
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源		府委 未来の担い手育成プログラム研究事業費委託金(10/10) 200千円							
目的		国府等の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、特色ある教育等を実践し、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。											
主要な事務・事業の概要	○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動（消耗品費等） 473千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業（府補助事業：全校で実施） 315千円 ・総合的な学習活動推進事業（市単独事業：全校で実施） 158千円 ○和装教育推進事業（講師謝金、クリーニング手数料等） 224千円 ・着付け体験学習（金中学校） 受講生徒：460人 ○教育実践研究指定事業（消耗品費、バス運行委託料等） 200千円 ・未来の担い手育成プログラム研究校 実施校：弥栄中学校 実施年度：令和元年度～3年度（3か年）		○修学旅行引率補助金 250千円 中学校6校 引率教員48人										
	成果・課題	○国や府等の研究指定校を受けて教育活動に取り組むことで、生徒の基礎学力の向上を図るとともに、規範意識、コミュニケーション能力、人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む教育のより一層の推進につながった。 ○生徒の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続して実践していくため、教職員の資質の向上と併せ、各学校の創意工夫による効果的な実践活動が必要である。											
主要な事務・事業の概要		○教育研究事業負担金 83千円 京丹後市中学校教育研究会 中学校教育に関する研究を推進し、教職員の資質の向上と中学校教育の推進を図るため、各教科の研究、研究集録・指導案の作成を実施。											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局				
	項	01 教育総務費				199千円		266千円	67千円	74.8%	課	学校教育課
	目	02 事務局費								01 いじめ防止啓発推進事業		
	事	13 いじめ防止推進事業										
	細事											
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源									
目的	「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。											
主要な事務・事業の概要	<p>〇いじめ防止講演会（講師謝金） 参加者：66人 75千円 開催日：令和元年11月14日（木） 講師：NPO法人ストップいじめ！ナビ 副代表理事 須永祐慈 氏 会場：アグリセンター大宮</p> <p>〇いじめ防止啓発グッズ作成（消耗品費、印刷製本費） 96千円 いじめ防止啓発用ポケットティッシュ 街頭啓発用 10,000個 街頭啓発 実施日：令和元年11月6日（水） 場所：ショッピングセンターマイン いじめ防止啓発PRカードシール 小学新1年生用 450枚</p> <p>〇いじめ相談専用電話設置（通信運搬費） 28千円 フリーダイヤル利用料、いじめ相談専用携帯電話利用料 相談受付：24時間対応 対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士 ※いじめ相談件数：0件</p>		<p>〇インターネットモラル研修会 参加者：34人 開催日：令和元年8月9日（金） 会場：大宮庁舎 講師：ライン株式会社 オフィシャルインストラクター 石田浩平 氏</p>									
	成果・課題	〇いじめ防止講演会及び街頭啓発キャンペーンを通じて、広く市民にいじめの問題等について、正しい理解や意識の高揚を促すことができた。 〇スマートフォン等を利用したSNSなど、インターネットを介した誹謗中傷やいじめ事象が増加傾向にあることから、保護者への啓発活動と併せて教職員の指導力の向上を図る必要がある。										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局				
	項	01 教育総務費				285千円		364千円	79千円	78.2%	課	学校教育課
	目	02 事務局費								02 いじめ防止対策等運営事業		
	事	13 いじめ防止推進事業										
	細事											
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源									
目的	いじめ問題対策連絡会議及びいじめ防止対策等専門委員会を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。											
主要な事務・事業の概要	<p>〇いじめ問題対策連絡会議経費（委員数：21人） 18千円 保育所、こども園及び小中学校におけるいじめの防止対策や早期発見、いじめへの対処等に関する協議を行うため、「いじめ問題対策連絡会議」を設置し、教育、福祉、医療、保健、警察及び司法等の関係機関との連携を図った。 開催日：令和元年5月30日（木） 会場：京丹後市役所峰山庁舎 ・報償費（委員謝金） 16千円 ・旅費（費用弁償） 2千円</p>		<p>〇いじめ防止対策等専門委員会経費（委員数：5人） 267千円 いじめの防止等のための対策に関する事項や重大ないじめ事象が発生した場合に調査を行うため、弁護士、医師、臨床心理士、学識経験者からなる「いじめ防止対策等専門委員会」を設置し、会議を開催するなど、それぞれの専門的な立場からいじめ事象に対する助言を受けた。 開催日：第1回 令和元年10月26日（土） 第2回 令和2年3月14日（土） 会場：京丹後市役所大宮庁舎 ・報酬 154千円 ・旅費（普通旅費・費用弁償） 80千円 ・消耗品費 16千円 ・有料道路通行料 17千円</p>									
	成果・課題	〇専門的な立場から指導・助言を受けることにより、学校に対していじめの防止等のための取組やいじめ事象の解決に向けた支援を行うことができた。 〇いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得ることを踏まえ、いじめの未然防止及び早期発見に向けた取組を推進する必要がある。										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	10,031千円	10,064千円	33千円	99.6%		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	03 指導主事設置事業				9,964千円	課	学校教育課
	細事	01 指導主事設置事業						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	非常勤指導主事を配置し、学校教育及び就学前教育の充実を図るとともに、円滑な学校経営を推進する。							
主要な事務・事業の概要	<p>4人の非常勤指導主事を各地域公民館に配置し、学校経営や教育内容について、その専門性と見識や経験を活かした指導、助言を行い、学校現場における課題解消に向けて対応した。</p> <p>○報酬 7,992千円 ・指導主事報酬(166,500円×4人×12か月)</p> <p>○共済費 1,341千円 ・社会保険料、雇用保険料</p> <p>○旅費 698千円 ・費用弁償</p>							
			<p>成果・課題</p> <p>学校経営、教育内容に対する専門知識や豊かな経験を基にした指導や助言を行うことにより、不登校を含めた生徒指導上の諸問題への対応など、複雑多様化する教育現場の諸課題の克服に資することができた。</p>					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	247千円	250千円	3千円	98.8%		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	10 就学支援・教育相談事業				250千円	課	学校教育課
	細事	01 就学支援・教育相談事業	府補 ぎょうと地域連携交付金(就学支援・教育相談事業) 100千円					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	児童生徒の不登校など学校不応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。							
主要な事務・事業の概要	<p>○教育相談事業及び研修の実施</p> <p>各小中学校において臨床心理士による児童生徒や保護者との教育相談を実施し、当該児童生徒の通う学校の教職員へのアドバイスを行った。また、児童生徒の不登校などの学校不応の未然防止や解消に向けての対応のあり方について、各小中学校の教育相談担当者や心の教室相談員などを対象に研修を実施した。</p> <p>・相談会場 大宮庁舎及び各小中学校</p> <p>・実施回数 毎月2回(大宮庁舎) 適宜実施(各小中学校)</p> <p>・相談件数 延べ278件</p> <p>・教育相談担当者研修 年3回</p> <p>・事例研修 教育支援部会などにて適宜実施(各小中学校)</p>							
	<p>○教育支援に係る発達検査記録用紙購入費 239千円</p> <p>・WISC-IV知能検査記録用紙、新版K式発達検査2001記録用紙など</p> <p>○教育支援に係る発達検査器具借上料 8千円</p> <p>・日本語版感覚統合検査JAPAN感覚処理・行為機能検査</p>		<p>成果・課題</p> <p>○臨床心理士による発達検査の実施、教育相談、教職員研修を実施することにより、児童生徒の学校適応が推進された。</p> <p>○一方、中学校での不登校の出現率が増加しているため、更に未然防止のための具体的なかつ多角的なアプローチ(不登校児童生徒へのアウトリーチ型訪問や個別アセスメントなど)を進めていく必要がある。</p> <p>○不登校などの学校不応の支援の在り方について、最新の研究や動向をふまえ、教職員への研修を行う必要がある。</p>					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局						
	項	01 教育総務費							7,794千円	7,804千円	10千円	99.8%		
	目	02 事務局費											10千円	9,544千円
	事	10 就学支援・教育相談事業												
細事	02 教育支援センター管理運営事業													
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源	府委	いじめ対策・不登校支援等推進事業費委託金(10/10)	702千円									
目的	不登校、又はその傾向にある児童生徒の学校生活への復帰等の社会的自立を支援する。		繰入金	ふるさと応援基金繰入金	5,000千円									
主要な事務・事業の概要	<p>不登校等にある児童生徒及び当該児童生徒の保護者に対し、教育相談及び適応指導を通じ、学校生活への復帰等の社会的自立を支援するため、京丹後市教育支援センター「まわら」の指導員が各小中学校や関係機関と連携しながら支援を行った。</p> <p>教育支援センター運営経費</p> <p>配置人数 5人 教育支援センター指導員</p> <p>配置体制 3人体制 指導員 ①週2日 1日7時間 1人 ②週3日 1日7時間 4人</p> <p>通所児童生徒数 19人</p> <p>相談延べ件数 1,182件</p> <p>来所延べ人数 1,475人</p>		成果・課題	<p>○教員経験の豊富な指導員による児童生徒等への学習及び生活の支援や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーのカウンセリングなどにより、個々のケースに応じた支援を行い、学校復帰や進路実現等の社会的自立を図ることができた。</p> <p>○中学校の不登校が増加していることから、より早期の段階で未然防止活動への対策を図る必要がある。</p>										
	<p>○共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 716千円</p> <p>○臨時職員賃金（指導員） 6,796千円</p> <p>○旅費（ひきこもり家族研修会 ほか） 22千円</p> <p>○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、修繕料 ほか） 209千円</p> <p>○役員費（通信運搬費、自動車損害保険料 ほか） 51千円</p>													

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																	
	項	02 小学校費							36,966千円	37,347千円	381千円	98.9%																													
	目	02 教育振興費											39,830千円																												
	事	04 小学校教育推進事業																																							
細事	01 小学校スクールサポーター等設置事業																																								
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																																							
目的	スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。																																								
主要な事務・事業の概要	<p>○介護職員 26人（1日7時間、週5日勤務）</p> <p>・臨時職員賃金 30,892千円</p> <p>・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 6,057千円</p> <p>・事務費（校外学習引率に伴う旅費、入場料、参加負担金） 17千円</p>		成果・課題	<p>配置一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>介護</th> <th>学校名</th> <th>介護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山小</td> <td>4人</td> <td>橋小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>しんざん小</td> <td>2人</td> <td>丹後小</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>長岡小</td> <td>1人</td> <td>吉野小</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>大宮第一小</td> <td>2人</td> <td>弥栄小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>大宮南小</td> <td>1人</td> <td>久美浜小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>網野北小</td> <td>2人</td> <td>高龍小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>網野南小</td> <td>3人</td> <td>かぶと山小</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>島津小</td> <td>1人</td> <td>計</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>		学校名	介護	学校名	介護	峰山小	4人	橋小	1人	しんざん小	2人	丹後小	2人	長岡小	1人	吉野小	2人	大宮第一小	2人	弥栄小	1人	大宮南小	1人	久美浜小	1人	網野北小	2人	高龍小	1人	網野南小	3人	かぶと山小	2人	島津小	1人	計	26人
	学校名	介護		学校名	介護																																				
峰山小	4人	橋小	1人																																						
しんざん小	2人	丹後小	2人																																						
長岡小	1人	吉野小	2人																																						
大宮第一小	2人	弥栄小	1人																																						
大宮南小	1人	久美浜小	1人																																						
網野北小	2人	高龍小	1人																																						
網野南小	3人	かぶと山小	2人																																						
島津小	1人	計	26人																																						
		<p>○必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。</p> <p>○児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。</p>																																							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																			
	項	03 中学校費	28,007千円	28,474千円	467千円	98.3%																																					
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額																																					
	事	04 中学校教育推進事業				29,201千円																																					
	課	01 中学校スクールサポーター等設置事業	府補	部活動指導員配置促進事業補助金(2/3)	1,669千円																																						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																																									
目的	スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。																																										
主要な事務・事業の概要	○介護職員 5人 (1日7時間、週5日勤務) ○講師(小中一貫コーディネーター) 6人 (1日7時間45分、週4日勤務) ○心の教室相談員 2人 (1日7時間45分、週5日勤務) ○部活動指導員 8人 (1日1時間、年間258時間勤務)			配置一覧 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>介護</th> <th>小中一貫コーディネーター</th> <th>相談員</th> <th>部活動指導員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td rowspan="6">2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>大宮中</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>網野中</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>丹後中</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>弥栄中</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>久美浜中</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5人</td> <td>6人</td> <td>2人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> ※相談員は3校に1人の配置。					学校名	介護	小中一貫コーディネーター	相談員	部活動指導員	峰山中	2人	1人	2人	1人	大宮中	1人	1人	2人	網野中	1人	1人	1人	丹後中	0人	1人	1人	弥栄中	1人	1人	2人	久美浜中	0人	1人	1人	計	5人	6人	2人	8人
	学校名	介護	小中一貫コーディネーター	相談員	部活動指導員																																						
峰山中	2人	1人	2人	1人																																							
大宮中	1人	1人		2人																																							
網野中	1人	1人		1人																																							
丹後中	0人	1人		1人																																							
弥栄中	1人	1人		2人																																							
久美浜中	0人	1人		1人																																							
計	5人	6人	2人	8人																																							
成果・課題	・臨時職員賃金 24,473千円 ・共済費(社会保険料、労災保険料、雇用保険料) 3,534千円			○必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。 ○心の教室相談員を配置し、生徒が悩みを話せる環境を整えることで、生徒の不安を和らげることができた。また、部活動指導員を配置することで、部活動の質の向上と部活動担当教諭の負担軽減を図ることができた。 ○生徒一人ひとりの課題・特性を把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。																																							

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																												
	項	02 児童福祉費	289千円	326千円	37千円	88.6%																														
	目	01 児童福祉総務費				(参考)当初予算額																														
	事	03 家庭こども相談室事業				3,058千円																														
	課	01 家庭こども相談室事業	諸収入	保育所等職員研修事業補助金	8千円																															
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	主な財源																																		
目的	家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。																																			
主要な事務・事業の概要	要保護児童対策地域協議会構成機関等と連携の下、児童虐待の未然防止、早期発見と適切な対応を行うとともに、支援が必要な児童や家庭(育児不安・養育力危惧・不登校等)について相談援助活動・家庭訪問・同行支援等を行った。			○京丹後市児童相談等取扱件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>詳細</th> <th>件数</th> <th>種別</th> <th>詳細</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">養護</td> <td>児童虐待</td> <td>268</td> <td rowspan="2">育成</td> <td>性格行動</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>134</td> <td>不登校</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>障害</td> <td>発達障害</td> <td>6</td> <td>適性・育児等</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>非行</td> <td>＜犯行為等</td> <td>0</td> <td>計</td> <td></td> <td>423</td> </tr> </tbody> </table>					種別	詳細	件数	種別	詳細	件数	養護	児童虐待	268	育成	性格行動	2	その他	134	不登校	5	障害	発達障害	6	適性・育児等		8	非行	＜犯行為等	0	計		423
	種別	詳細	件数	種別	詳細	件数																														
養護	児童虐待	268	育成	性格行動	2																															
	その他	134		不登校	5																															
障害	発達障害	6	適性・育児等		8																															
非行	＜犯行為等	0	計		423																															
事業実績額	○旅費 要保護児童対策地域協議会講演会講師旅費 12千円 調整担当者研修会等旅費 123千円 ○需用費 啓発物品・事務用品等 35千円 ○役務費 職員対応用携帯電話通話料(3台) 71千円 ○備品費 職員対応用携帯電話購入(1台) 38千円 ○負担金 京都府家庭相談員連絡協議会負担金 10千円			○要保護児童対策地域協議会運営状況 ・代表者・実務者会議 2回 ・ケース進行管理会議 5回 ・ケース検討会議 162回 ・講演会 1回(令和元年11月30日開催) 参加者143人																																
成果・課題				○調整担当者研修等を受講し、複雑・多様化する家庭児童問題に対応するための専門的知識を向上させることができた。 ○面談・家庭訪問・電話相談の実施、ケース検討会議の開催、要保護児童対策地域協議会の取組等により、さまざまな課題のある家庭への対応や支援を行うことができた。 ○適切に迅速な支援につなげるため、担当者の研鑽を重ねるとともに、関係機関との連携をさらに深めていく必要がある。																																

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																		
	項	04 社会教育費	1,574千円	1,575千円	1千円	99.9%																				
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課																		
	事	10 家庭教育事業				1,938千円																				
細事	01 家庭教育事業	府補 家庭教育支援基盤形成事業補助金(2/3)				708千円																				
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源																							
目的	発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。																									
主要な事務・事業の概要	乳児期から就学前、思春期の各発達段階に応じた学習機会の提供と家庭教育支援チームによる子育て支援活動を実施した。 また、引き続きPTA活動の支援を行った。																									
	○家庭教育支援チーム事業(ファシリテーター謝金等) 857千円		○子育て講座(講師謝金等) 213千円																							
	子育て経験者や専門的な知識・経験を持つサポーターで構成する「家庭教育支援チーム」を各地域公民館で組織し、地域課題に即した子育て支援活動を行った。 ※家庭教育支援チーム:計6チーム、子育てサポーター:計46人		<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子育て交流会</td> <td>28回</td> <td>519人</td> </tr> <tr> <td>「手紙で結ぶ家族の絆」事業</td> <td>12回</td> <td>227人</td> </tr> <tr> <td>子育て広場</td> <td>8回</td> <td>236人</td> </tr> <tr> <td>高校生と赤ちゃんのふれあい交流</td> <td>21回</td> <td>311人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69回</td> <td>1,293人</td> </tr> </tbody> </table>						事業	回数	延べ参加者数	子育て交流会	28回	519人	「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人	子育て広場	8回	236人	高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人	合計	69回	1,293人
	事業	回数	延べ参加者数																							
子育て交流会	28回	519人																								
「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人																								
子育て広場	8回	236人																								
高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人																								
合計	69回	1,293人																								
※広報紙発行:1回		<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子育て交流会</td> <td>28回</td> <td>519人</td> </tr> <tr> <td>「手紙で結ぶ家族の絆」事業</td> <td>12回</td> <td>227人</td> </tr> <tr> <td>子育て広場</td> <td>8回</td> <td>236人</td> </tr> <tr> <td>高校生と赤ちゃんのふれあい交流</td> <td>21回</td> <td>311人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69回</td> <td>1,293人</td> </tr> </tbody> </table>						事業	回数	延べ参加者数	子育て交流会	28回	519人	「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人	子育て広場	8回	236人	高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人	合計	69回	1,293人	
事業	回数	延べ参加者数																								
子育て交流会	28回	519人																								
「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人																								
子育て広場	8回	236人																								
高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人																								
合計	69回	1,293人																								
		○京丹後市PTA協議会補助金 504千円 市研究大会の開催、各種研修会の参加、安全会掛金等への助成																								
		成果・課題 ○子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供し、子どもとのコミュニケーションの大切さや、生活習慣を身に付けさせるための家庭の役割の重要性などについて啓発することができた。 ○関係機関との連携により、課題の共有とより効果的な学習会等の実施を進める必要がある。																								

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	02 児童福祉費	177,977千円	181,460千円	3,483千円	98.0%							
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課					
	事	02 放課後児童健全育成事業				176,242千円							
細事	01 放課後児童健全育成事業	主な財源											
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		使用料	放課後児童健全育成事業利用料 20,664千円									
目的	保護者の就労等により放課後や長期休業期の屋間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。		使用料	公有財産使用料 9,971千円									
主要な事務・事業の概要	保護者の就労等により、放課後や長期休業期の屋間に家庭保育を受けることができない小学校に通学する児童を対象に、安心して生活できる場を提供することで、子どもたちの健やかな成長に努めた。		国補	子ども・子育て支援交付金(1/3) 21,394千円									
	○開設状況 年間開設日数:280日(うち新型コロナウイルス感染症対策対応分:15日) 開設時間:授業終了後~午後6時30分 (長期休業期及び土曜日は午前7時30分~午後6時30分) 年間平均児童数:467人(10か所、12支援単位) 峰山55人・長岡19人・いさご42人・大宮62人 口大野①49人・口大野②41人・網野南38人・網野北47人 丹後20人・弥栄26人・久美浜①46人・久美浜②22人		府補	子ども・子育て支援交付金(1/3) 15,958千円									
	○需用費(消耗品費、燃料費、光熱水費等) 6,110千円		諸収入	市有自動車損害共済金 123千円									
	○委託料(消防設備点検、浄化槽点検、児童送迎車運転等) 8,667千円		○工事請負費(久美浜・口大野エアコン移設工事等) 397千円 ○その他の経費(火災・自動車共済等保険料・自動車重量税ほか) 1,146千円										
○放課後児童健全育成事業委託料 161,657千円 (うち新型コロナウイルス感染症対策対応分 6,615千円)		<table border="1"> <tr> <td>参考</td> <td>繰越明許費を除いた最終予算額</td> <td>178,460千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実質的な予算執行率</td> <td>99.7%</td> </tr> </table>						参考	繰越明許費を除いた最終予算額	178,460千円		実質的な予算執行率	99.7%
参考	繰越明許費を除いた最終予算額	178,460千円											
	実質的な予算執行率	99.7%											
		■令和2年度への繰越事業 3,000千円 ・放課後児童クラブ園舎等解体事業(工事設計) 令和2年6月完成											
		成果・課題 ○利用者数が増加傾向にある中、待機児童ゼロを継続し児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。また、新型コロナウイルス感染症対策として3月に小学校が臨時休校となった期間も開設し、保護者の就労を支援することができた。 ○年々増加傾向にある利用者に対応するため、小学校の空き教室の更なる活用など施設拡充を検討する必要がある。											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	874千円	948千円	74千円	92.1%			
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額			
	事	18 子ども放課後対策推進事業				948千円			
	細事	01 子ども放課後対策推進事業	主な財源	府補		京のまなび教室推進事業補助金(2/3)	582千円		
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進								
目的	放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健康やかに育まれる環境づくりを推進する。								
主要な事務・事業の概要	○委託料 放課後子ども教室運営委託料(2か所) 874千円								
	※事業の概要								
		網野北小学校区放課後子ども教室	網野南小学校区放課後子ども教室						
	実施場所	網野北小学校施設内	網野南小学校施設内						
	委託先	放課後子ども教室実行委員会	放課後子ども教室実行委員会						
	参加児童数	延べ819人(1回平均22人)	延べ1,712人(1回平均46人)						
	支援員の数	延べ231人(1回平均6人)	延べ295人(1回平均8人)						
	実施日	平成31年4月~令和2年3月(授業のある水曜日の放課後)37回							
	活動内容	自主学習、体験活動、集団遊び、自由遊び、スポーツなど							
	成果・課題			<p>○子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)として放課後子ども教室を開設し、地域住民の協力を得て子どもたちに世代間交流の機会を提供するとともに、さまざまな体験活動を実施することができた。</p> <p>○子ども教室の運営は、地域住民の協力を得て実施することになっており、スタッフの確保が課題である。</p>					